



# グローバル経営の分類

三本松(2005)  
(Doz et al.(2001))

# 1. 本国の産業・経済集積の利益を活用

本国に企業グループの「製品供給とイノベーション上の優位性」を構築し、これらを活用して、本社は、製品・サービスを海外子会社を活用してグローバルに輸出の形で供給する。

「グローバル企業モデル」

### 3. 本国を越えて、グローバルに各国の産業・経済集積の利益を活用

バーチャルな本社機能が、本国を越えて各国の先端的な産業・経済集積の利益を活用して、グローバル(複数国)な拠点到形成した研究、開発、生産、販売、等の機能を統合的にマネジメントしてグローバルな「製品供給とイノベーション上の優位性」を構築し、これを利用して、本社はその製品・サービスを海外子会社を通して、グローバルな生産拠点から最適供給する。

**「メタナショナル企業モデル」**

## 2. 本国を始めとする複数国の産業・ 経済集積の利益を活用

本国で構築した企業グループの「製品供給とイノベーション上の優位性」をグローバル(複数国)に移転し(一部を含む。)、活用して、地域・国単位で海外子会社から製品・サービスを供給する。

「自動車産業等に見られる製品・サービスの現地生産モデル」

本社の所在する地域を含む各地域(日・米・欧州)、国単位で、企業グループの「製品供給とイノベーション上の優位性」を構築し、これらを活用して、地域・国単位で海外子会社から製品・サービスを供給する。

「マルチナショナル企業モデル」

本国本社と先端的な産業・経済集積の所在する複数国にある海外子会社が研究、開発、マーケティング等の本社機能を分担し、グローバル統合的な「製品供給とイノベーション上の優位性」を構築し、これらを活用して各国単位で海外子会社を通して、製品・サービスを供給。

「トランスナショナル企業モデル」

# 基本的な問



- トランスナショナル経営、メタナショナル経営が必要とされる場合とは？

# Environment (環境)



- market, technology changing rapidly  
(変化が速い)
- huge investment (投資額が巨大)
- probability of success is not high at all  
(成功確率は高くない)

# Significant characteristics

## (重要な特徴)

- intellectual property (知的資産),
- learning curve (economy of scale) (習熟曲線 (規模の経済)),
- network externalities (ネットワーク外部性)

each means “Winner takes all”  
(一人勝ち)

# Requirements (必要条件)

- We should be agile. Take advantage of anything meaningful on this globe. Find partners and decide everything among us.  
(すばやい経営、内部自治)
- We should bear the intrinsic risk. Separate related risk from the main office or save another chance for my life.  
(負担するリスクとその影響の隔離)
- LLC, LLP is better than existing form of corporation.  
(柔軟な企業組織)



# 仮説

- 日本企業は、  
変化が比較的速くない。(not rapid change)  
新プロジェクトへの投資も企業規模から  
すれば、マネイジャブル。(not huge investment)  
成功確率は、ある程度ある。(not low  
probability of success)  
という分野なら大丈夫。
- 自動車、メカトロニクス・・・(automobile,  
mechatronics)

# Remaining issues (残る課題)

- 例え、日本で制度が追いついたとしても、  
カルチャーと人材は残る大問題  
(そう悲観することもない?)
- Even though Japan would catch up with  
“institutions” of global standard,  
culture?, management human resources?